

「救命救急センターの新たな充実段階評価」において 「S評価」を受けました

経営管理課、さいたま・総務課

厚生労働省が救急医療体制の強化を図る目的で毎年実施している救命救急センターの充実段階評価（平成30年）において、附属病院および附属さいたま医療センターの両救命救急センターが4段階評価（S、A、B、C）中、最も評価が高いS評価となりました。附属さいたま医療センターにおいては、S評価を受けた全国68病院中でも神戸市立医療センター中央市民病院、東京医科歯科大学医学部附属病院に次ぐ第3位となり、附属病院は栃木県内唯一のS評価となっています。

（公表結果URL：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188907_00001.html）

救命救急センターの充実段階評価とは、充実度を評価することにより、個々の救命救急センターの機能の強化、質の向上を促し、もって全国の救急医療の強化を図る目的で毎年実施されているものです。

平成30年度からは、さらなる救命救急センターの充実を目指す目的で、従来の施設、医療機器、医療スタッフ等の充実度を中心とした評価体系から、診療、看護ケアなどの診療プロセスも含めた評価体系への見直し、さらに、地域の関係機関との連携の観点からの評価も追加した「救命救急センターの新たな充実段階評価」が策定され、従来のA評価・B評価・C評価に加え、新たにS評価が創設され4段階の評価となりました。

附属病院及び附属さいたま医療センターは、「S評価」の救命救急センターを有する病院として、これからも引き続き、救命救急センターの機能強化・質の向上を図るとともに、患者中心の医療、安全で質の高い医療の提供、サービスの向上に努めていく所存です。



（左：間藤救命救急センター長 右：佐田病院長）



（左：守谷救命救急センター長 右：百村センター長）